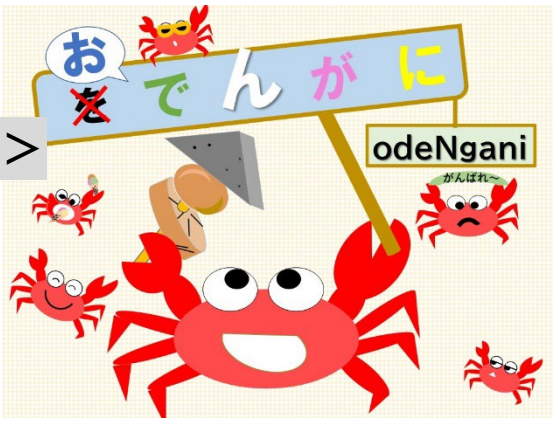
にほんごのれんしゅう＜odeNgani＞



＜頻出する格助詞、「を」「で」「が」「に」から作ったタイトルです。＞

■このサイトは、日本語の基礎的な文法や語彙についてクイズ形式で学習するためのサイトです。聞こえに障害のあるお子さんの中には、日本語に対して苦手意識や「きらい」「いやだ」といった気持ちの持っているお子さんがいるかもしれません。クイズ形式で取り組むことで、多少なりともそのような気持ちが少なくなってくれることを願っています。

■ことばの習得には、日常生活や学校生活の中でのコミュニケーションや、丁寧なやりとりが不可欠です。様々なコミュニケーション方法を使って、会話ややり取りを楽しむこと、授業の中で先生や友達と話すことが言葉の力を育てるための基盤であると考えています。ですので、このサイトにあげたようなクイズや問題は、あくまでもことばの学習の補助的なものと見なしています。課題や問題、プリントなどは繰り返し行うことで、少しずつ読み書きに慣れて抵抗感を少なくするための補助的な教材だと考えています。そのような感覚でお使いいただければと思います。

■ここで取り上げた文法項目については、外国人のための日本語教材、聞こえない子どもの書いた作文、小学校用の教科書に登場する表現を分析した結果に基づいて選んでいます（研究内容の具体については、下記の論文をご参照ください。東京学芸大学リポジトリよりダウンロード可能です）。各文法項目のおおよその難易度の設定については、次ページの表などをご参照ください。

・澤隆史・新海晃・大鹿綾・村尾愛美・相澤宏充・林田真志（2021）小学校教科書における日本語文法項目の使用傾向－聴覚障害児への文法指導を踏まえて－.東京学芸大学紀要総合教育科学系,72,249-260.

・澤隆史・新海晃・村尾愛美・大鹿綾（2021）聴覚障害児の作文における使用からみた日本語文法の難易度―文法指導における難易度段階の提案―東京学芸大学教育実践研究,17,67-76.

＜難易度の表＞

		作文での使用頻度に基づく段階					
		a	b	c	d	e	f
小学校教科書での使用頻度に基づく段階	A	1	2	3	4	5	6
	B1	2	4	6	8	10	12
	B2	3	6	9	12	15	18
	C1	4	8	12	16	20	24
	C2	5	10	15	20	25	30
	C3	6	12	18	24	30	36
	D1	7	14	21	28	35	42
	D2	8	16	24	32	40	48
	E	9	18	27	36	45	54
	F	10	20	30	40	50	60

A
B
C
D
E
F
G

作文での使用	
a 1	低学年で高頻度
b 2	中･高学年で高頻度
c 3	中学部で高頻度
d 4	高等部で高頻度
e 5	いずれの学年でも低頻度
f 6	未使用

×

小学校教科書での使用	
1	低学年で高頻度
2	中･高学年で高頻度
3	低学年で中頻度
4	高学年で高頻度
5	低学年で低頻度･
6	中･高学年で中頻度
7	高学年で中頻度
8	中･高学年で低頻度
9	高学年で低頻度
10	未使用

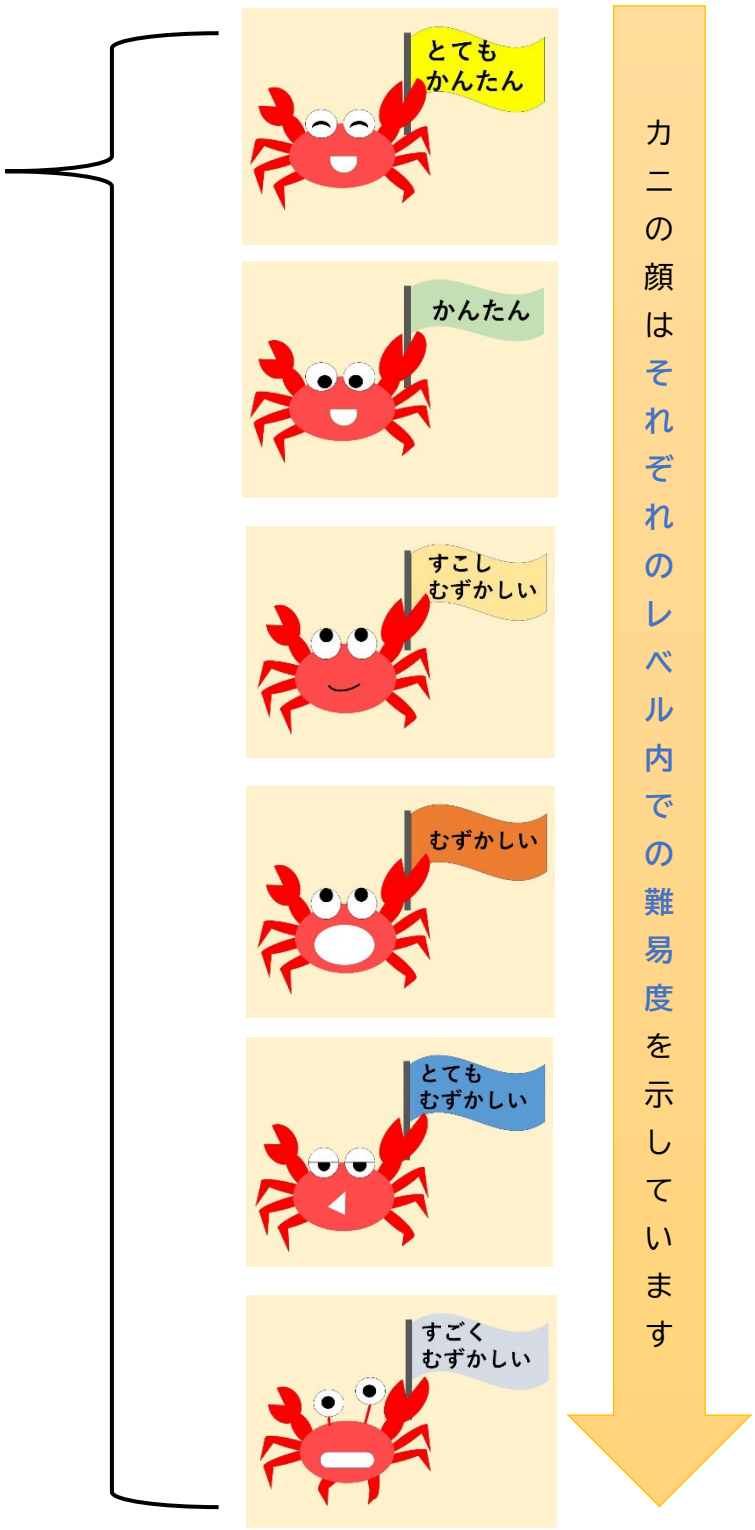
＝

レベル		段階
A	5以下	きそ
B	5～10	
C	11～15	きほん
D	16～20	
E	21～25	はってん
F	26～30	
G	31以上	おうよう＊

「おうよう」は、G レベルで日本語学習レベルが N1 のもの

＜サイト内の表示＞

「きそ」「きほん」などの表示は、おおよそ以下のレベルを示しています。

表記	レベル
きそ	A
	B
きほん	C
	D
はってん	E
	F
おうよう	G

ごい	「ごい」は、上記の基準とは関係ないです。･･･個人の“感覚”でつくっています。